



桜満開のなか、海の幸を味わう！

第23回 熊石あわびの里フェスティバル

5月21日、熊石青少年旅行村にて「熊石あわびの里フェスティバル」が開催されました。

ピクニック日和の快晴の中、道内各地などから約2万人が会場へ来場し、地元の旬のあわび1万7千個やエゾバカ貝（アオヤギ）1万2千個、そのほか地元の水産物や農産物などを楽しみました。ステージイベントでは、日本海はまなす太鼓や熊石レディースネットによるスコップ三味線の演奏、あわびが当たるダーツゲームやあわび宝もちまきが行われました。出店の中には、4年目となる熊石地域活性化プロジェクトに取り組む札幌大谷大学の学生17名が「熊石の活性化のために特産品を使ってPRしたい」と用意した「あわびカレー」「たこの水餃子」が提供されました。同実行委員長の刀禰さんは「天気にも恵まれ、桜も見ごろ。このイベント通じて北海道新幹線を利用するお客様などに、熊石の良さをPRしていきたい」と語りました。



不審な人・車両にNO！ 身の回りの安全は地域で守ろう 春の地域安全運動出動式

5月11日、八雲警察署にて町内の防犯を啓発しパトロールする「春の地域安全運動出動式」が行われました。この運動は、5月11日～20日の間、警察、自治体などの関係機関や地域の防犯ボランティア団体が連携し、地域住民の自主防犯意識の高揚を図り、地域安全運動を推進するものです。八雲町内では、のぞき、空き巣、車上荒らし、自転車の盗難などが続いているため、地域全体で防犯の啓発を推進するため、参加者全体で市街地のパトロールを行いました。



看護師ってどんな仕事？

八雲総合病院「1日看護体験」

5月9日、八雲総合病院にて看護の日「1日看護体験」が行われました。看護師を目指す八雲高校、森高校、檜山北高校の2・3年生男女13名が参加しました。生徒たちは、各病棟に分かれスタッフから病棟や看護の説明を受けた後、実際に患者とふれあひながら、看護師という職業について学びました。参加した生徒は、寝ている新生児の小さな「手」を見て「看護の大変さと喜び、大切さを感じる事ができた」と話していました。

